

平成28年決算特別委員会（農政部審査）開催状況

開催年月日	平成28年11月9日（水）		
質問者	公明党	吉井 透	委員
答弁者	農政部長	土屋 俊亮	
	競馬事業室長	大野 克之	
	食の安全推進局長	小野 悟	
	農業経営局長	鳥海 貴之	
	競馬事業室参事	橋本 真明	
	6次産業化担当課長	中島 和彦	
	農業経営課長	水戸部 裕	

質問要旨	答弁要旨
<p>一 農業者の経営状況について</p> <p>人口減少や急速な高齢化などによって、国内の食市場が縮小する一方で、東南アジア諸国をはじめとした、海外の食市場は急速な拡大が期待をされています。道では成長する海外の食市場を取り込み、農畜産物の輸出拡大を促進するため、「北海道食の輸出拡大戦略」を策定したと承知をしております。農畜産物の輸出拡大を促進するためには、本道農業者の生産基盤や経営が安定していなければ、達成できないものと考えます。</p> <p>そこで、最初に、農家の経営状況などについて伺ってまいります。</p> <p>（一）農家戸数の推移について</p> <p>まず、本道の農家戸数について、現在と20年前の状況がどのようになっているか、伺います。</p> <p>（二）経営規模について</p> <p>現在の農家戸数は20年前と比較すると半分になっているということですが、一方で、農業産出額は昭和50年代後半から一貫して約1兆円をキープしております。離農された皆さんの農地を、残された農家の皆さんが吸収しながら、新品種や栽培技術の高度化などにより、地域の農業生産を維持してこられたものと思われませんが、この間の経営規模の推移について、先ほどと同様に、20年前と比較してどのようになっているのか伺います。</p> <p>（三）経営収支について</p> <p>20年間で2倍にも経営規模が拡大したということですが、規模拡大に伴う投資をはじめ、大型化した機械や施設の維持費など、生産コストが嵩んでいるのではないかと懸念されるところですが、現在の経営収支はどのようになっているか伺います。</p>	<p>【農業経営課長】</p> <p>本道の農家戸数についてでございますが、農業従事者の高齢化や担い手不足などによりまして、本道の販売農家戸数は年々減少を続けております。国の農林業センサスによると、平成27年には約3万8,100戸と、20年前の約7万3,600戸に比べまして、約半分となっているところでございます。</p> <p>【農業経営課長】</p> <p>農家の経営規模についてでございますが、本道においては、農家戸数が年々減少する中、農業基盤の整備や新たな省力化技術の導入、農業機械の高能率化、また、コントラクターやTMRセンターの利用、さらには、酪農におけますフリーストールやミルクパーラーの導入などによりまして、意欲ある担い手が離農跡地を吸収する形で経営規模の拡大が進んでおりまして、国の農林業センサスによりまして、平成27年の1経営体当たりの経営耕地面積は26.5ヘクタールと、20年前の12.6ヘクタールに比べまして、約2倍となっているところでございます。</p> <p>【農業経営課長】</p> <p>農家の経営収支についてでございますが、本道におきましては、農家の経営規模の拡大に伴い、肥料や農機具、雇用労賃などの農業経営費が増加しているものの、農畜産物の販売収入などの農業粗収益も増加しておりまして、また、大規模化による経営の効率化が図られたこともございまして、その差額であります農業所得は増加傾向となっております。</p> <p>経営収支が明らかとなります最も新しい国の農業経営統計調査によりまして、平成26年度の農業粗収益は約2,600万円、農業経営費が約1,900万円で、その差額であります農業所得は約700万円と、都府県平均の約100万円に比べまして、7倍となっております。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(四) 営農類型別の経営収支について 平均所得が700万円ということでありませけれども、本道は、比較的規模が小さく、園芸などが盛んな道南地域をはじめ、大規模水田地帯の道央地域や、大規模畑作地帯の十勝・オホーツク地域、そして、酪農地帯であります道東・道北と様々な特色ある農業が営まれておりますが、これら営農形態ごとの収支の状況について伺います。</p> <p>二 農畜産物の輸出拡大の取組について 次に、農畜産物の輸出拡大の取組についてであります。 道においては、先般、食の輸出拡大戦略を策定され、平成30年には食の輸出額1,000億円、うち農畜産物については、100億円の目標を掲げて、この達成に向けて、取組の加速が必要になっているものと考えております。 そこで、以下、伺います。</p> <p>(一) 農畜産物の輸出の現状について まず、道産農畜産物の輸出の現状について、お伺いをします。</p> <p>(二) 道産農畜産物の輸出の課題について 平成27年の輸出額は38億円ということでありませけれども、示されたこの100億円の輸出目標というのがどうかということもありますが、この輸出目標の達成のためには現状のペースを更に加速する必要があると思われませ。 どのようなことが課題になっているのか、伺います。</p>	<p>【農業経営局長】 営農類型別の経営収支についてでございますが、国の農業経営統計調査によりますと、本道の平成26年の水田作経営は、米価の低下などの影響によりまして、1経営体当たりの農業粗収益は1,390万円、農業経営費は980万円で、農業所得は410万円となっており、25年と比較すると約90万円、18%の減少となっております。 畑作経営は、概ね作柄が良好であったことから、農業粗収益は3,170万円、農業経営費は2,160万円で、農業所得は1,010万円となり、25年より約160万円、19%の増加となっております。 野菜作経営も、概ね作柄が良好でありましたことから、農業粗収益は1,820万円、農業経営費は1,250万円で、農業所得は560万円となり、25年より約50万円、10%の増加となっております。 酪農経営は、乳価や個体販売価格が堅調でありましたことから、農業粗収益は6,910万円、農業経営費は5,730万円で、農業所得は1,190万円となり、25年より約190万円、16%の増加となっております。 経営収支は、作柄はもとより、農畜産物の販売価格や生産資材価格などにも大きく左右されますことから、こうした変動にも耐え得る足腰の強い農業経営の確立が重要と認識をしております。 以上でございます。</p> <p>【6次産業化担当課長】 農畜産物の輸出の現状についてでございますが、農畜産物の輸出は、平成24年以降、一貫して増加してございます。輸出額は、平成24年の18億円から27年には38億円に、数量では、平成24年の5,635トンから27年には2万869トンへと拡大しているところでございます。 また、国別では、台湾、香港、アメリカ合衆国の順で輸出額が多くなってございまして、また、品目別では、ながいもとロングライフ牛乳いわゆるLL牛乳で全体の6割以上を占めてございまして、玉ねぎや米などの輸出も増加しているところでございます。</p> <p>【6次産業化担当課長】 輸出拡大に向けた課題についてでございますが、農畜産物の輸出に当たりましては、国際的な食品安全基準ですとか相手国の独自の動植物検疫などへの対応が求められていることから、食肉処理施設へのHACCPの導入ですとか病害虫侵入の未然防除、残留農薬基準への対応などといった、道内産地の体制整備に取り組むことが必要と考えてございます。 また、輸送が長距離にわたることから、農畜産物の鮮度を保持しつつ、低コストで輸送できる手法を確立する</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(三) 試験研究との連携について コストの低減や鮮度の保持などの課題があるという ことではありますが、これらの解決するためには、 試験研究の成果などを活用していくことが重要と考 えます。 所見を伺います。</p> <p>(四) 道産農畜産物の輸出の拡大について 道総研、様々に研究をいただいているという風に 伺いました。 これまでの議論を踏まえて、輸出戦略における目 標を達成するために、今後道としてどのように取り 組むお考えなのか、伺います。</p> <p>いま色々伺いましたが、まだ実証段階のものも多 いという風に 承知をします。 しっかり取組をお願いしたいと思います。</p> <p>(五) 本道農業のめざす姿について 今後、ますます国内人口が減少して、国内マーケ ットの縮小が懸念される中で、海外の食市場に打っ て出なければ、本道農業の維持・発展は難しいと感 じております。そのためには、意欲と知見にあふれ た農業者の育成や生産・流通体制の整備など、総合 的な対策が必要と考えます。道として、本道農業の 将来について、どのような姿を目指し、どのような 対応をしていくのか伺います。</p>	<p>とともに、海外の食習慣や嗜好を踏まえ効果的にマーケ ティングを進めることも必要であると認識してございま す。</p> <p>【6次産業化担当課長】 試験研究との連携についてであります。農畜産物の 輸出に当たりましては、北海道立総合研究機構、いわゆ る道総研のコスト低減技術ですとか長期保存技術など といった研究の成果や、民間企業が開発した新たな鮮度保 持技術などを積極的に活用していくことが必要と考えて いるところでございます。 具体的には、水稲や玉ねぎの直播栽培による低コスト な生産技術ですとか、端境期の出荷を狙った抑制栽培に 適した新品種メロンの普及、さらに、船便での鮮度を維 持するため、新たに開発された包装フィルムや冷蔵コン テナの導入による実証試験などに取り組んでおりまし て、こうした研究成果の活用により、輸出の促進が期待 されるところでございます。</p> <p>【食の安全推進局長】 輸出の拡大についてでございますが、本道農畜産物の 輸出を拡大していくためには、相手国の検疫条件への対 応や輸出コストの低減、さらには、安全・安心を強調し た効果的なマーケティングなどに積極的に取り組んでい くことが重要であります。 このため、道としましては、米や青果物、牛肉を重点 品目に定めまして、道内産地の加工施設等におけるHACC Pの導入などを支援するとともに、生産者団体や輸出商 社などと連携しながら、新たな研究成果などを生かし、 船便による鮮度保持技術の実証、LCCによる青果物のテ スト輸出に取り組むほか、北海道という最大のブランド を生かしました現地でのプロモーションを展開するなど しまして、農畜産物の輸出の拡大を図ってまいりたい と考えております。</p> <p>【農政部長】 本道農業のめざす姿についてであります。世の中の グローバル化が進展おりますけれどもそうした中で、地 域と経済を支えております北海道の農業が、今後とも持 続的に発展し、将来にもっと大きな姿で引き継がれてい くためには、現在の生産力や競争力の一層の強化を図り、 食料の安定供給に努めていくとともに、海外の食市場に ついて積極的に取り込んでいくなど、マーケットを拡 大しながら、発展していくことが大切であると考えてお ります。 このため、道では、今年の3月に策定いたしました第 5期の北海道農業・農村振興推進計画におきまして、生 産基盤の整備や新技術の導入、生産・加工施設の整備を 推進いたしますとともに、チャレンジ精神旺盛な多様な 担い手の育成・確保、或いは6次産業化や輸出の拡大な どに積極的に取り組んでいくということとしておりまし て、こうした取組などを通じまして、北海道農業の潜在 力が遺憾なく発揮され、農業者の方々が今後とも意欲を</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>部長から答弁を頂きました。</p> <p>旭川にも農協がハワイに高い価格でハワイの高級料理店に向けてお米を出している積極的な農協があると承知をしております。1kgあたりおよそ900円から1,100円くらいでハワイに出しているところですが、東南アジアにもマーケットを拡大しようという意気込みを持って農協などが取り組んでいる訳であります。</p> <p>こうした農産物の海外マーケットを切り開いていくということは非常に大事なことだと思っております。生産者の希望にも繋がりますし、今、部長がおっしゃったような、意欲を持って営農に取り組む姿勢に繋がるという風に確信します。</p> <p>農政部の皆さんにおかれては、経済部との連携が必要になると思えますけれども、海外マーケットの拡大を含めた積極的な取組みを期待したいと申し上げておきたいと思えます。</p> <p>三 ホッカイドウ競馬について</p> <p>ホッカイドウ競馬については、平成25年度から単年度黒字となり、JRAとの相互発売を開始するなどの経営努力が功を奏したものと考えるが、引き続き、残る課題を克服し、将来にわたって一層経営を安定させていくことが重要と考えます。そこで、以下、何点かにわたって伺っていきます。</p> <p>(一) ホッカイドウ競馬の経営状況について</p> <p>ホッカイドウ競馬の経営状況について、JRAとの相互発売開始前後で、どのようになっているのか。</p> <p>また、単年度黒字となった主な要因について伺います。</p> <p>(二) 発売状況について</p> <p>黒字の金額を伺いましたが、JRAとの相互発売を背景として、発売額は平成24年度に120億円だったものが、平成25年度は20億円増えて140億円となりその後も増えてきており、平成27年度は169億円となっております。</p> <p>この発売の増加については、インターネットによる発売が奏功しているとのことだが、インターネッ</p>	<p>持って営農に取り組むことができるように、環境づくりを道として進めてまいりたいと考えております。</p> <p>【競馬事業室長】</p> <p>ホッカイドウ競馬の経営状況についてであります。道では、平成20年に策定した「競馬改革ビジョン」、また23年に策定した「競馬推進プラン」に基づき、様々な改革を進めてきた結果、25年度からは、単年度収支の黒字が続いている。具体的に申し上げますと、25年度は1億7千万円、26年度は繰上充用を解消した上で1億9千万円、27年度は2億円の黒字となっております。</p> <p>この黒字の要因は、21年度に門別競馬場にナイター施設を整備し、全日程をナイター開催とした中で、他主催者よりも多い複数のインターネット発売チャンネルを有していたほか、24年度からJRAとのインターネットシステムを利用した発売が可能となり、発売額が向上した。併せて、全道の場外発売所におけるJRA馬券発売に伴う手数料収入が増加したことによるものであり、中でもJRAと地方競馬の連携協調策として実施された相互発売効果が大きいと認識しているところであります。</p> <p>【競馬事業室参事】</p> <p>発売状況についてであります。ホッカイドウ競馬ではインターネット発売に関し、JRAと民間のネット会社の計4者に委託し発売しているが、近年は、前年度を上回る発売が続いた結果、ネット発売の割合は平成24年度の56%から、27年度には71%となり、本年度においてもその割合はさらに高まっております。</p> <p>また、道内の場外発売所については、ホッカイドウ競</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>トによる発売はどうなっているのか。また、道内の場外発売所での発売状況はどうなっているのか伺います。</p> <p>(三) A i b a 札幌駅前等の閉鎖について 札幌市内には、これまで3箇所の場外発売所があったと承知しているが、現在は1箇所のみとなっている。どのような経緯で1箇所になり、A i b a 札幌駅前など2箇所が閉鎖に至ったのはなぜか伺います。</p> <p>また、特にA i b a 札幌駅前は閉鎖1年前にVIPルームを改修したとお聞きしているが、この経緯と、改修から1年で閉鎖になったことへの当時の見通しはどうだったか併せて伺います。</p> <p>(四) A i b a 札幌駅前の導入備品について A i b a 札幌駅前のVIPルームには改修の際に、新たな備品が設置されたと伺っているが、備品の総額はいくらだったのですか。</p> <p>また、閉鎖になった後、こうした備品は現在はどうなっており、今後どのようにしていくのか伺います。</p> <p>(五) 札幌市内の場外発売所について A i b a 札幌駅前の閉鎖決定に伴い、札幌駅周辺に新たな場外発売所を探していたとのことだが、今になっても開設には至っていないのは非常に残念なことである。現状でどのような状況にあるのか伺います。</p> <p>また、現在、札幌市内の場外馬券場はA i b a 札幌中央のみとなっているが、市内の場外発売所を今後どのようにしていくのか併せて伺います。</p> <p>以上、経緯を伺って参りましたが、金額的には700万円ではあるが、これが倉庫の中に保管されたままというのはいかかなものかと思えます。一番良いところどどのように開設するかは主催者の努力によるが、できるだけ早い段階で駅前場外の再開できるよう努力して頂きたいと思えます。</p> <p>(六) 今後の取り組みについて 馬産地を抱える北海道として、ホッカイドウ競馬の健全な発展は大変重要であると考えている。J R Aとの連携のほかにも新たな客層を取り込むためのイメージ戦略や広報宣伝活動などさまざまな智慧を出していくことが必要であると考えます。</p> <p>今後の一層の収益確保に向け、道として、ホッカイドウ競馬事業にどのように取り組んでいくのか所見と農政部長の決意を伺います。</p>	<p>馬のほか、南関東など他の地方競馬やJ R Aの馬券も発売しているが、ホッカイドウ競馬の発売は年々減少傾向に、他の地方競馬の発売はほぼ横ばい、J R Aの発売は増加傾向となっております。</p> <p>【競馬事業室参事】 札幌市内の場外発売所についてであります。ホッカイドウ競馬では、札幌駅前、札幌中央、そして琴似の3カ所を開設しておりましたが、場外施設所有者から経営上の事情による退去要請があったことから、平成24年11月には琴似を、27年3月には札幌駅前をそれぞれやむを得ず閉鎖したところであります。</p> <p>また、A i b a 札幌駅前については、開設から10年を迎え、アナログモニターの更新と併せ利用増加を図るため、着席してゆったりと馬券が購入できる有料指定席を改修し、26年7月にオープンしましたが、その後、26年末に所有者からの退去要請があったものであり、改修時点においては、想定されなかったところであります。</p> <p>【競馬事業室参事】 A i b a 札幌駅前の導入備品についてであります。有料指定席の改修のため導入したテーブルや椅子などの家具類、モニター等の備品総額は700万円余りとなっているが、これらについては、現在、門別競馬場や一部場外発売所などで活用しているほか、札幌駅周辺での新たな場外発売所での活用を念頭に保管しているところであります。</p> <p>【競馬事業室長】 A i b a 札幌駅前の再開などについてであります。道では、駅前場外の施設所有者から退去の打診があつて以降、札幌駅周辺の数カ所の物件を対象に所有者などの関係者と協議を重ねてきたが、いずれも諸条件が折り合わず、今日まで開設には至っていない状況であります。</p> <p>札幌市は人口も多く、発売額も期待できます。まずは、買い物や通勤、さらには観光客などで多くの人々が往来し、高い収益性やホッカイドウ競馬の宣伝効果も期待できる札幌駅周辺で、できるだけ早く再開できるよう、引き続き努力してまいりたいと考えております。</p> <p>【農政部長】 競馬事業の振興についてであります。競馬事業は、平成25年度から3年連続して黒字となり、今年度も計画を上回る発売となっているところであり、これまでの馬産地やJ R A、そして現場の運営に携わる多くの関係者などのご支援・ご協力の賜と認識しております。</p> <p>私自身も5年間競馬事業を担当させていただいたが、赤字のため開催経費を削減する中で、機械・施設の投資を抑制してきたことから、多くが老朽化しているほか、道内発売の減少や出走馬の確保、さらにはA i b a 札幌駅前の再開など、競馬事業を運営継続していく上で様々</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>質問にあたって、様々な現場を見せて頂きました。 門別競馬場の周辺には、名馬の出身牧場もあることから、競馬場と周辺牧場が連携した誘客というの も考えられます。 このような面からも馬産地振興を進めて頂ければ と思います。</p>	<p>な課題もあるところです。 このため、今年3月に策定した「第2期競馬推進プラン」に基づき、ファンの確保や競馬の基礎である番組の 充実、サービスの向上などにより、一層の発売拡大に取り 組むとともに、黒字経営を基本としながら、必要な投資 を計画的に行い、我が国最大の馬産地に立脚する競馬 主催者として、今後とも安定的な事業運営が図られるよ う力を尽くしてまいりたいと考えております。</p>